

なりたの昔話

第11回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載しています。
【参考文献】コミュニティ成田No.53(1995年11月発行)

芋ころがし

こんな馬鹿ばなしもあるがね……。ある日、村人たちが長者の屋敷の祝い事で、お呼ばれすることになった。困ったことに皆、作法が分からない。

「和尚なら作法を教えてくださいな」

と、一同、寺に行つて和尚に相談してみることにした。

和尚は一同を前にすると、「ほうほう、そういうわけか……。実は、私も呼ばれておるのじゃ。では、こうされたらよい。座敷に上がったらな、私の横に一列に並ぶのじゃ。そうしての、私の作法の通りをされればよからう」と言つた。

当日になつて、村人たちは和尚の後に付いてぞろぞろと長者の屋敷に行つた。座敷に上げられて和尚の横に座っていると、いよいよ膳が運ばれてきた。ごちそうに芋の煮つ転がしがあつた。

和尚、ツルツル滑るサトイモを箸でつまもうとして、うっかり畳の上で転がしてしまつた。これを見た隣の村人、急いで転がさねばと箸で転がした。と、その隣りも、そのまた隣の村人も転がした。畳の上には芋がいっぱい転がってしまった。

和尚、いまさら、

「いやいや、これは違うんじや」と言うわけにもいかず、

「エヘン、エヘン」

と咳払いで知らせようとした。ところが村人たちは、一生懸命じゃ。とにかく和尚のやる通りをやらなければと、順番に、

「エヘン、エヘン」

を連発した。和尚、またまた困つて、

「違う、違う」

とばかり、隣の村人を肘でつついた。そしたら隣りは隣りへ。そのまま隣りへと順々に肘でつついていった。一番端にいた村人、

「わしや、誰をつつけばいいんじや？」と言つた。



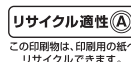
編集後記

今回が2回目となる「成田エアポートツーデーマーチ」。第1回の昨年は広報なりたスタッフも張り切って取材に臨みました。参加者に同行したりチェックポイントを車で先回りしたりして数多くのシーンを撮影する予定でしたが、最長30kmコースの参加者のスピードに付いていけず、途中で同行を断念。最後にスタートした10kmコースに合流してゴールにたどり着きました。今回はこの経験を生かし、万全の取材計画で臨もうと思います。

平成25年4月15日号 No.1241

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。